

# 『 検 閲 』

文学的な検閲について考え

私は愛する人の「検閲」を優しく愛撫したかった  
そして、彼の「検閲」の美しさを詩に書きたかった  
しかし、聖職者はこれを許さなかった  
だが、多くの文芸評論家は、絶賛した  
そして、私の詩は検閲された

ただ単に小さな肉の塊に過ぎないものに、  
なぜそんなに激怒するのだろうか

体裁をつくろい、ごまかしても、現実には揺るがない

官能を持つ詩人は感性を呼び覚ませ  
官能的表現は、排除され、  
ポルノというレッテルを貼られるべきではない  
なぜなら、官能的なことは、  
地球で生きていく方法のひとつにすぎないから

**クリス：** 世界には、自分の考えを表現する自由のない地域が、未だに数多く存在します。

**テリー：** ええ。多くの作家が、存在を軽んじられ、作品は検閲を受けています。

**クリス：** 以前はインターネットが自由を提供してくれると信じていたが、今は確信が持てない。

**ティム：** 私の知る限り、歴史上でこの問題は幾度となく起こっています。この戦いには終わりが無いように思えます。

- T Newfields (和訳: 槌谷メリサと Teresa と吉田典子)

開始: 1993年 静岡市 ★ 完成: 2015年 東京

